

視察報告書

三重県尾鷲市

於 尾鷲市役所

平成 31 年 1 月 28 日

松阪市議会

松政会

平成 31 年 2 月 6 日

松阪市議会議長 中島 清晴 様

松阪市議会
松政会 米倉 芳周

平成 31 年 1 月 28 日（月）に行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

記

1. 参加者

松政会

市野幸男

谷口 聖

松本一孝

中村 誠

2. 視察先及び視察事項

尾鷲市市議会の ICT 導入について

- (1) 導入における経緯と背景
- (2) 導入後の効果と課題

3. 視察内容

別紙のとおり

●尾鷲市議会

1. 研修内容

・尾鷲市議会は、公衆インターネット回線を経由したクラウドコンピューティングを用いた会議を行うことで、議会関連資料、事務局と議員間の文書のやりとりを容易にし、かつ、ペーパーレス化等の経費の削減、会議の迅速性、文書管理の効率化を図る事に成功した。その導入に至る経緯、及び導入後の効果と課題についての研修。

2. 対応者

尾鷲市議会	副議長	仲	明	氏
尾鷲市議会	議員	三 鬼	和 昭	氏
尾鷲市議会	事務局長	岩 本	功	氏
	事務局次長	高 芝	豊	氏

3. 議会 ICT 導入について

(1) 経緯と背景

2013年頃から議会へのICT導入が始まり、2018年においては、すでに110以上の議会が導入し効果をあげ、現在も更なる必要性の加速度を増している状況である。そのような中、尾鷲市議会は、2014年に議員からタブレット端末の導入について提案があった。当初は、議員の半分以上が反対であったが、タブレット端末運用開始に至るまでの2015年まで、ペーパーレスや文書管理等の「無駄を省く」ことを目的に議論を重ね、また、導入に係る経費の市民への理解は、議会報告会での「丁寧な説明」を経て実施に至った。

①経緯

2014年 5月	議会運営委員会	関市へ先進地行政視察。
2015年 6月		第2回定例会にて導入に係る補正予算計上。
	7月	議会運営委員会 丹波市、大津市へ先進地行政視察。
2015年 8月		作業部会設置。
2015年 10月		タブレット端末購入。(入札) 会議システム選定。(公募型プロポーサル) 議会フロア 環境整備。(入札、工事)
2015年 11月		貸与規定、使用ガイドライン作成。

議員への貸与開始。

議員、事務局の会議システム研修。(1回目)

運用開始。(第4回定例会)

2016年 2月 議員、事務局、執行部の会議システム研修。(2回目)

②システムの内容

- ・ 端末モデル Apple ipad Air2 16GB
- ・ 議員 14 台 (セルラータイプ)
- ・ 通信会社 docomo
- ・ 事務局 5 台、執行部 24 台 (wifi 専用)
- ・ ソフト 東京インタープレイ株式会社
- ・ 電子化する文書
議案書、委員会資料、議場配布書類、予算書、決算書
但し、議案書、予算書、決算書については紙ベースを併用。

③経 費 (税込)

1) 導入経費

- ・ 議会システム導入 (サーバー設定、研修費用) 172,800 円
- ・ タブレット端末 29 台 (事務局、執行部) 1,624,850 円
- ・ 環境整備 922,329 円

2) 維持管理費

- ・ 会議システム利用 (ライセンス料、保守料) 年 97,200 円
- ・ タブレット端末議員用 14 台 (セルラータイプ) 年 1,028,040 円

(2) 効果について

コスト面と議会 (会議) の効率面での効果があった。

①コストの削減

- ・ 議会で配布、回収等、紙の削減。
- ・ 印刷製本、資料準備に係る人件費の削減。
- ・ 印刷費の削減。

②効率化の推進

- ・ 必要な際に簡単に資料の閲覧が可能。
- ・ 視察先、議会報告会等、議会外での活用が可能。
- ・ 緊急時の迅速な情報提供及び連絡が可能。(連絡の一元化)

- ・各課、事務局との情報、資料の共有可能。
- ・議会スケジュールの共有可能。

(3) 今後の課題

現在のシステムにおいては、データの蓄積年数は約7年分位である。これ以上のデータを管理すると利用料はかなり高くなるとのことである。今後のデータを蓄積していく中で7年分の容量を超える際のデータ保存の方法を確立する必要がある。

また、システム契約は3年であるため、3年ごとの契約となる。現在のシステムを何らかの事情で変更した場合は、研修をし直す必要があるため、当面は随意契約となることも一つの課題ではあると考える。

4、所 感

今回の研修にて、タブレット端末利用の「利便性」、「効率」という最大の利点があることを強く感じた。

また、会議システムは各自治体の議会の要望の蓄積を経て、益々進化し成熟度を増している状況にも驚いた。

機能面で特に注目したのは、「カレンダーアプリの利便性」である。これは、会議、委員会の日程は無論、急に決定した会議、委員会等の日程も瞬時に反映され、議員全員が同時に情報共有でき、各自の様々な計画が立てやすくなっている。

また、「ハンガアウト」というアプリにて、事務局からの議員へメール連絡が一元化でき、かつ、議員一人ひとりの既読確認ができるのも特徴の一つである。

このように尾鷲市議会でのICT化のメリットは最大限に活用されている状況を見て、本市においても迅速なICT化の導入を進める必要性を大いに感じた。

以上